

(1) 保存地区の概要

地区名	大田市大森銀山
種別	鉱山町・陣屋町
選定年月日	昭和62年12月5日
面積	約162.7ヘクタール
特徴	大田市大森銀山伝統的建造物群保存地区は、幕府直轄地約4万8千石、約150カ村の中心の町であった。銀山は14世紀初めに発見されたと伝えられ、産銀量は17世紀初頭にピークをむかえ海外にも輸出された。町並みは銀山川沿いの谷間に延びる約2.8キロの範囲で、代官所跡や郷宿、武家屋敷、商家などが現存し、背後の山裾には社寺や墓地、石切り場なども残され、鉱山町の歴史的景観を良好に伝えている。



地区名	大田市温泉津
種別	港町・温泉町
選定年月日	平成16年7月6日
面積	約36.6ヘクタール
特徴	大田市温泉津伝統的建造物群保存地区は、天然の温泉が湧き出る港町で、中世より石見銀山の外港として発展してきた。狭隘な谷を切り開いた約800メートルの町並みは、近世の地割をよく残している。江戸末期から昭和初期にかけて建てられた町屋を中心に、旅館や社寺などの多様な建造物が並んでいる。それらが周囲の海や山とともに、港町・温泉町の景観を形成している。



(2) 保存地区のあゆみ

- 昭和61年(1986) 旧大田市大森銀山地区 伝統的建造物群保存
対策調査を実施
- 昭和62年(1987) 旧大田市大森・銀山地区 重要伝統的建造物
群保存地区に選定
- 平成 6年(1996) 旧大田市大森銀山地区 防災施設整備 (～
平成8年)
- 平成 9年(1997) 旧温泉津町温泉津地区 伝統的建造物群保存
対策調査を実施(～10年)
- 平成13年(2001) 重文熊谷家住宅保存修理開始(～平成17年)
- 平成16年(2004) 旧温泉津町温泉津地区 重要伝統的建造物群
保存地区に選定
- 平成17年(2005) 市町合併により新「大田市」誕生
- 平成18年(2006) 大森銀山地区 無電柱化事業(～平成21年)
- 平成18年(2006) 重文熊谷家住宅公開活用スタート
- 平成19年(2007) 大森銀山地区 保存範囲拡大
- 平成21年(2009) 温泉津地区 保存範囲拡大
- 平成24年(2012) 温泉津地区 保存対策調査(防災計画策定)
- 平成26年(2014) 温泉津地区 防災事業スタート(～平成31年)
- 平成27年(2015) 伝建制度40周年 文化庁長官より、大森町文
化財保存会に感謝状を授与
- 平成29年(2017) 大森銀山地区伝建選定30周年

(3) 保存地区の保存と整備

◆大森銀山地区

修理・修景の実績(昭和63年～)

修理158件 修景60件

防災施設整備(消火栓整備)(平成6～8年)



無電柱化前



無電柱化後

◆温泉津地区

修理・修景実績(平成17年～)

修理42件 修景18件

防災施設整備(平成26～令和元年)



消火栓(温泉津地区)



修景前



修景後

(4) 保存地区の活用とまちづくり

【大森銀山地区】

- ・地元企業による空家改修と定住促進(計60棟以上)
- ・飲食店、サテライトオフィス等の出店
- ・町並みガイドや宿泊施設の整備
- ・公開施設の整備(重要文化財熊谷家住宅等)
- ・町並みを活かしたイベントの開催
- ・近年の出生数の増と人口減抑制(保育園舎の増設)



飲食店(修景)



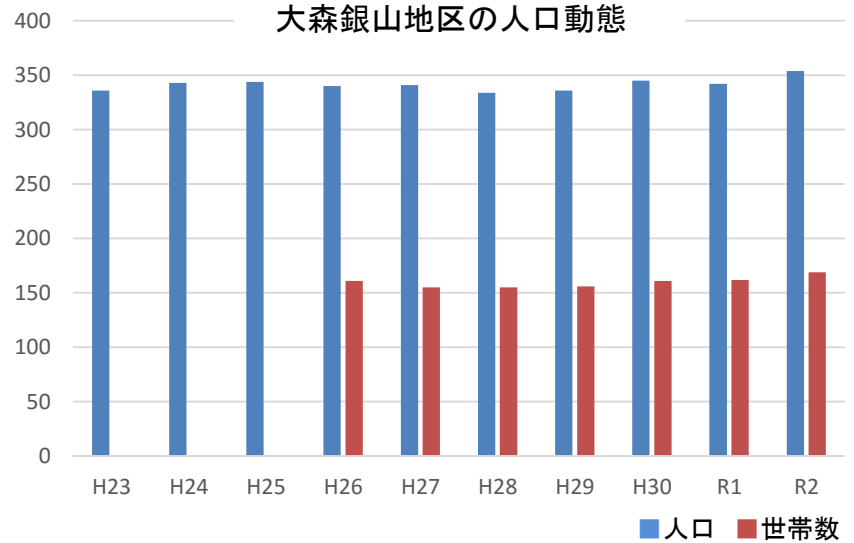
宿泊施設(新築修景)



町並みを活かしたイベント
「天領さん江戸の町」



文化財建物と活用
「竈体験」 重文熊谷家住宅



【温泉津地区】

- ・町並みの一角や空き店舗を利用したイベント開催
- ・地区内の神社で毎週末開催される夜神楽公演
- ・民泊など宿泊利用の増





伝建物を利用した宿泊施設



地区内の神社で行う夜神楽

(5) 住民等の取り組み

	大森銀山地区	温泉津地区
<p>保存会の活動</p>	<p>大森町は昭和29年に自治会全戸が加入する大森町文化財保存会を結成し、石見銀山遺跡や町並みの保全を40年にわたり行っています。石見銀山遺跡の世界遺産登録に際しては、賑わいと穏やかさの共存を目指す「大森町住民憲章」を制定し、自主的な出店マナーや交通規制により、魅力ある町づくりを一丸と行っています。</p>  <p>保存会による 清掃活動</p>	<p>平成24年、町並み景観に調和した街路灯・舗装デザインを検討する住民組織「温泉津街並み環境整備委員会」が結成されました。町並みの空き店舗を活動拠点とし、住民と行政職員による検討会を重ねました。現在、空家対策、情報共有、観光振興などをテーマに、町づくりビジョンや住民憲章等の検討を行っています。</p>  <p>地区内の石切り場跡を活用したイベント (石切bar)</p>
<p>技術者・技能者による取り組み</p>	<p>市内外の職人や建築士が参加する「石見伝統建築文化研究会(ITAC)」を結成し、保存修理等を通じた大工や左官技術の向上と継承、保存地区に限らず歴史建築物の保存に向けた現状把握と調査を行っています。</p>	
<p>保存地区を支える人々の努力</p>	<p>地元企業による取り組み 空家改修を積極的に行い、社員寮や若者賃貸住宅、店舗として活用し、定住促進を行っている。(地区内改修60件)</p>	<p>地元NPOによる取り組み 温泉津温泉を核とする町並みの活性化に向け、賑わい創出のためのイベント開催、空き家情報の収集と若者の移住定住を積極的に行っている。</p>